



発行 研修部会

「八幡町の歴史ガイド」



かこがわ人の会

令和5年6月26日

目次

1、八幡町の歴史	P 1
2、雁戸井用水（がんどいようすい）	P 1
3、八幡町内の道標（どうひょう）	P 4
4、旧八幡村の道路元標（どうろげんぴょう）	P 6
5、猫池の伝説	P 7
6、西条の城山（さいじょうのじょやま）	P 8
7、熊尾山萬福寺（ゆうびさんまんぷくじ）	P 9
8、圓木山常観寺（えんぼくさんじょうかんじ）	P 11
9、草谷川	P 12
10、亀之井用水	P 13
11、大崎稻荷神社	P 16
12、民話「ねずみにひかれた秀吉のお墨付き」	P 17
13、上西条の石棺仏	P 19
14、八幡町の今 1	P 20
15、八幡町の今 2	P 22
参考文献	P 24
MEMO	P 25

1、八幡町の歴史

奈良時代の地誌「播磨国風土記」にはこのあたりのことが記されています。

「大帯日子天皇、巡行之時、見此村川曲、勅云、此川之曲、甚美哉、故曰望理」第12代景行天皇が播磨地方を巡行されたとき、加古川の流が大きく曲がりくねっている様子を見られて感激され、「この川の曲がり具合は、はなはだ美しい」と言われて以来人々は望理の里（まがりのさと）と呼ぶようになったそうです。

望理の里は現在の八幡町、神野町、稲美町あたりのことを指すようです。ある説では、川は草谷川のことではないかとも言われています。

明治22年（1889年）市町村制施行に伴って、加古郡の下村、上西条、中西条、船町村、宗佐村、野村が合併して八幡村が誕生しました。

昭和30年（1955年）加古川市との合併により、加古郡八幡村は加古川市八幡町になりました。八幡（やはた）の名前は、この辺りで有名な宗佐厄神八幡神社（そうさやくじんはちまんじんじゃ）からつけられました。

2、雁戸井用水（がんどいようすい）

いなみ野台地の西北端にある、旧加古郡の八幡村、神野村の高台地域ではとても水田を開拓する余裕はなく、それまではわずか0.3haのため池で約3haの水田が開かれているにすぎませんでした。

明治 30 年 (1897 年) ごろより、補助水源の開発が提唱され、明治 39 年 (1906 年) 末、旧加古郡の八幡村と神野村の村長が中心となり、雁戸井普通水利組合が発足し、水源を旧母里村字草谷加古新大溝用水取り入れ口下流 500m、草谷川の雁戸井という伏流水湧水箇所から水路を引き、地区内に 3 個のため池 (雁戸井 1、2、3 号池) を造り、非灌漑期の水を導水貯留する計画を立てました。

雁戸井用水という名前は、この用水の取り入れ口のある雁戸井という地名からつけられました

この工事は明治 43 年 (1910 年) に着工して、大正 5 年 (1916 年) にほぼ完成しています。その後昭和 3 年 (1928 年) 1 月、八幡村の下村と上西条の間で草谷川の水を約 40m ポンプアップして 2 号池に貯留する工事も行われました。

又、明治 45 年 (1912 年) 7 月雁戸井耕地整理組合認可と同時に開墾に着手し、畑、山林が開墾され、146ha の水田が得られました。

その時のため池の規模は次の通りです。

1 号池は	八幡村下村	あり、面積 8.9ha	貯水量 360,600 m ³
2 号池は	西条	、面積 8.8ha	貯水量 420,700 m ³
3 号池は	中西条	、面積 5.4ha	貯水量 180,300 m ³
計	3 個	23.1ha	961,600 m ³

その後、せっかく開墾された水田は、昭和 16 年 (1941 年) 軍備強化のための部隊の駐屯地として、26 反 2 畝 12 歩が買収されました。しかし昭和 20 年 (1945 年) 戦争は終わり土地は払い下げられました。

用水路の延長は 7 km に及んでいます。用水路が老朽化したため、昭和 27 年～28 年 (1952～1953 年) 改修され、1 号池、2 号池も老朽化のため改修されました。水源である雁戸井取り入れ口も昭和 51 年 (1976 年)、草谷川が改修され、昔の湧水箇所は見えなくなり、又井堰も近代式油圧転倒ゲートに変更されました。

3 個のため池は完成しましたが 1 号池だけでも満水にすることはできませんでした。1 号池、2 号池は現在も水はたたえられています。3 号池は土質の関係で保水力が弱く水を溜めるのに苦労がありました。3 号池は昭和 38 年 (1963 年) 11 月、加古川市の発展に利用するため売却され埋め立てられ、現在は高岡住宅団地になっています。

2 号池は、農家減少、ため池の有効利用のためこの辺りでは最大級の水上メガソーラー (大規模太陽光発電所) となって、水上には 7,000 枚のパネルが設置されています。パネル面積 2.4 ヘクタールで、一般家庭 460 世帯分に相当する年間約 160 万 k w の発電をしています。

雁戸井用水は淡山疏水・東播用水水系に組み込まれ、経済産業省の近代化産業遺産として「瀬戸内海沿岸の灌漑施設」の構成遺産に認定されています。

平成 29 年 (2017 年) 八幡町中西条地区で、雁戸井地区は場整備事業に伴い、古堂廃寺跡 (ふるどうはいじあと) の発掘調査が行われました。遺跡は古堂廃寺遺跡といわれています。

平安時代 (9～12 世紀) ごろの掘立柱建物跡 1 棟、溝状

遺構1条、土坑3基、ピット数10基と、鎌倉時代(13世紀)の墓壙1基が検出されました。墓壙からは、中国製青磁器1点、国産の土師器5点が完全な形で出土しました。台地上に西条廃寺も近くにあり、台地が1000年もの昔から開かれていたことが想像できます。

平成30年9月もう1件八幡町下村地区で弥生時代～鎌倉時代にかけての複合遺跡、片山遺跡が発掘調査されました。古堂廃寺遺跡と同様雁戸井地区ほ場整理事業の農業用水路工事で確認される範囲について発掘調査されました。

近くには大日山遺跡もあり、古墳時代からいなみ野台地に集落があったことがわかります。

3、八幡町内の道標(どうひょう)

加古川市内には、昔から市南部には山陽道(西国街道)、市北部には有馬街道(湯の山街道)という大きな街道が通っています。

道標は江戸時代の中期以降、庶民に生活の余裕が出てきたころ西国巡礼や名所旧跡めぐりに出かけるようになったころに建てられた道案内の標識でした。

目的地への方向、距離を表す石標のことで道路の分岐点、交差点に建てられた道しるべです。石材はほとんどが凝灰岩です。

加古川市内では114個の道標が確認されており、八幡町内には9個が残っています。中でも①中西条の道標は加古川市内最古のもので、安永2年(1773年)のものといわ

れています。ちなみに2番目に古いのは尾上神社にある道標で、安永7年(1778年)のもので、この道標には西国同行九人とか、左三木やしる ありま道、右加古川高砂北在家道と刻んであります。西国観音札所、有馬温泉や、加古川高砂の松の名所案内と思います。書いてある方向と実際の方向が違っていますので他から移されたものと考えられます。次に②上西条の道標ですが、寛政7年(1795年)四面とも字が刻まれ、中程から2つに割れて現在は成福寺に移されていると記録がありました。成福寺を訪問し、お寺の奥様にお聞きしたところ「以前無縁墓を整理した時にそこへ一緒に集められたのではないかな」と言われたので無縁墓を探してみましたが見つけれませんでした。仕方がないので元道標があった場所に行ってみました。台座はありました。近くに真新しい石柱が倒れていて、それには右中西条 中成福寺 左昌岩寺と刻んであります。最近造られた道標でしたがなぜかホッとしました。ここの道標が建てられた当時は、鬱蒼とした山林の中の道を行く人のために建てられたものでしょう。

宗佐八幡宮近くに道標が2基並んであります。③1基は万延元年(1860年)、仏像が刻まれ、右二見別府 左明石神出も読むことができます。④もう1基は右土山 左草谷とはっきり読むことができます。明治になる8年前の道標でやはり当時は寂しい辻に建てられ、通行する人を案内したのでしょう。

宗佐にも2基の道標が並んで建っています。⑤1基には

右三木 左やくし道

それと左面に施主の名前が刻まれています。⑥もう1基には右三木阿り満 中正本うじ 左於のやしろ道とあり、有馬温泉への案内と近くのお寺の案内のようです。⑦宗佐常観寺参道の道標は船町から来る道と、有馬街道の交わる所にあったものが移転されたものです。嘉永2年(1849年)、右飛めち 左た可さ古、当所世話人の字があります。⑧船町公会堂前の道標は船町交流会館にあって、以前は船町から国包に行く道にあったらしいです。(耕地整理で今はない) 同行十人、右く尔可ねや志ろ 左ふなまち王たし道と刻まれ、船町にも加古川の渡しがあったことがわかります。⑨船町墓地の道標は厄神駅西の墓地の六地藏さんと並んで折れたのが置かれています。寛政5年(1793年)、右ひめ 左た可、国包村が読めます。

現在忘れられかけているふるさと八幡町の文化遺産である道標を、元設置されていた場所、だれが、いつ、何のために建てたのかとか当時のことを想像しながら町内の道標を訪ねてはどうでしょうか。

4、旧八幡村の道路元標(どうろげんびょう)

道標は道案内ですが道路元標は道案内のためではなく、道路の付属物としてその所在を示したものです。大正8年(1919年)11月4日の道路法施行令に基づいて設置されました。それによりますと道路元標は各市町村に1個設置すること、郡役所、市町村役場などの所在地を起点とする

などが定められました。

形状は大正9年(1920年)11月18日兵庫県告示第225号によって定められています。大きさは一辺25cm、石の四角柱、高さは60cm、表に市町村名を記載し、道路に面して建てること、当時の市町村の中心に建てることが決まられていました。現在の加古川市内には16箇所に建てられましたが市内で確認できている道路元標は7箇所です。旧八幡村の道路元標は八幡町下村の公会堂の敷地に置いてあります。

八幡町の歴史を知るためにも旧八幡村役場近くにこの道路元標が設置されれば良いのにとおもいます。

5、猫池の伝説

いなみ野台地の西北にある、上西条、中西条は加古川からの灌漑用水を得にくく水不足があり難儀していたので、台地の谷の窪地に池が造られました。現在は池の真ん中に東播磨道の大きな橋脚が座っています。

昭和52年(1977年)10月、老朽溜池等整備事業で堤防が修理補強され昭和54年(1979年)3月に完工し「猫池改修記念碑」が建てられています。

碑文によりますと、猫池は享祿4年(1531年)に造られたと書かれています。池は完成し水不足に悩む上西条、中西条の村人たちに大きな恩恵が与えられました。一方では、台風の時期になると大雨で堤防が切れ、田畑や民家が押し流される災難に見舞われました。

そこで何とか堤防が切れないものかと思案した結果、人柱をという思案も出ましたが誰も申し出る者がなく、あるお告げにより、猫8匹が堤の中に埋められました。当時としては大がかりな築堤工事が完成しました。以来堤防は切れることなく450年以上満々と水を湛えてきました。

地形があたかも猫が横たわっているかのように見えることから猫池と呼ぶようになりました。猫柱の伝説は後世に作られた話かもしれません。

平成26年3月に猫池の由来の書かれた説明板が池の側に新しく作られました。

樋口から池の水が流れ出る所を見ると、水がはるか下の深い谷底をながれており、猫池がいなみ野台地の深い谷筋に造られた池であることがわかります。

私達は台地上にあるため池一つ一つに先人達の絶えざる努力と工夫が込められてきたことを忘れてはならないと思います。農業用水確保のための血と汗の先人の遺産です。

6、西条の城山（さいじょうのじょやま）

いなみ野台地の西端に「わがまち加古川70選」のNo.59で紹介されている小さい山があります。

城山と書いて「じょやま」と呼ばれています。標高85mの山頂には中世、赤松則村（円心）が西条城を築いたと言われています。山頂まで2ヶ所の登山道があり、山頂には愛宕神社がお祀りされています。山の南側の愛宕神社へ

の参道、神社前の広場は綺麗に掃除されており、地元の方が大切にされていることがわかります。山頂にある城山の案内板から引用します。

「標高85メートルの城山は、赤松則村（円心）（1277～1350）の城館跡と伝えられていることから、西条城跡の遺構になっています。江戸時代中期の地誌である播磨鑑（はりまかがみ）には、中西条村から東へ2丁（約218m）の場所にあり、長さ140間（約265m）、横幅100間（約182m）、高さ84間（153m）と記されています。またこの城山には、建武3年（1336年）建立された紫鳳山法雲禅寺という寺院がありましたが、江戸時代には廃寺になったことが記されています」

この城は永禄3年（1560年）、有馬国光の時代に落城した記録があります。城山の頂上は広くなだらかで三等三角点（85.05m）があります。

城山は、明治42年（1909年）当時の皇太子（のちの大正天皇）が播磨地方で陸軍演習があったとき、演習の様子をご覧になった山だそうです。

山頂からの眺めは360度の展望ができ、ここに城を築いた人の気持ちも理解できます。加古川の雄大な流れ、加古川市内、瀬戸内海、明石海峡大橋も見ることができます。山腹には加古川市の上水道の建物、電波塔が数箇所あります。

7、熊尾山萬福寺（ゆうびさんまんぷくじ）

八幡町下村にある曹洞宗のお寺で本尊は釈迦牟尼仏坐

像です。文明 8 年（1476 年）に建立されました。天正 7 年（1579 年）豊臣秀吉の播磨攻めの時焼失しました。江戸時代には榊原公の時、享保 18 年（1732 年）伽藍は整ったようです。

昭和になって火災に遭い、建物は焼失しましたが住職と村の人の協力で再建され現在の建物になりました。八幡町には大きなお寺が沢山ありますが、村の人々の力強さを感じます。

萬福寺の墓地、境内にこのあたりの歴史を知る石碑があります。寺の墓地に無縁仏を集められている場所がありますが、その中心にひときわ大きな墓標が立っています。「一山突句居士」と刻まれた顕彰碑です。裏面には謂れが刻まれています。「ふるさとやはた」に書かれていますので引用します。

「延宝年間（1673 年～1680 年）当地方は凶作で大飢饉となり、困窮したことがある。年貢米はおろか生活にも事欠いた農民の窮状を知った時の郡司、富塚久右衛門は城主に上奏して、2 年間年貢米取立中止の措置を取り、庄屋以下農民はこぞってその慈悲に感激した。その後延宝 9 年（1681 年）富塚久右衛門は逝去したが、住民一同は報恩の誠を表すため、23 回忌に当たる元禄 16 年 8 月（1703 年）建碑大供養をした」

又、萬福寺本堂前の南側の塀の側に水運開拓碑と言われる「錦林紅露居士」と刻まれた墓標があります。元治 2 年（1865 年）に建てられたものです。墓標の横面に文字が

刻まれています。判読できません。下村の水運開拓について銘記されていると言う事です。内容について「ふるさとやはた」に書かれています。

「岡本甚之助が庄屋の役職にあったころ文政時代（1818～1830 年）、当時米、麦、その他農産物の運搬には牛や馬を使用していた。しかしその労を省くため下村の西側に港を造り、そこから附近の小川に通じる運河を開拓した。

その後生産された穀物等はこの港に積み込まれ、小川を経て数折して大川（加古川）に通じ一路高砂にでる。そして海路飾磨港に至りここで陸上げして姫路藩に上納した。こうした水運開拓の功績を称え姫路藩主より帯刀を賜った」

萬福寺から離れた下村の中央にある地藏堂前に、「一石一字法華塔」がありますが、この碑が建てられた当時の萬福寺住職（8 世台峰万染大和尚）が字を書かれたそうです。

天保年間（1830～1843 年）全国的に大飢饉が発生し、疫病も流行下村も被害が大きかったので、この塔を建てお祈りをしたところ疫病も止んだと言うことです。その後も疫病などで困ったときにはお祈りをされたそうです。お祈りは萬福寺住職がされたのではと想像します。この塔には妙法蓮華経を一石に一字書いて千個の石を納め三界万靈の供養をされました。

8、圓木山常観寺（えんぼくさんじょうかんじ）

八幡町宗佐にある曹洞宗のお寺で本尊は釈迦本尊坐像

です。国包から有馬街道を東へ進み、宗佐交差点手前の細い道を左折し旧三木鉄道（平成 20 年廃線）の線路跡を横切り、西国 33 所の石仏の並んでいる参道を進むと山門に突き当たります。常観法師の創始といわれ真言宗として宗佐北東部の圓木山（現三木市）にありました。

（今も圓木山は常観寺の山号）後に豊臣秀吉の三木城攻めの時、兵火にかかり焼失しました。元禄 16 年（1703 年）曹洞宗として建立されました。

境内は国包構居跡として知られています。領主は加古源右衛門右京美宗で別所の家臣でした。寺の周囲には溝があり敷地は一段高く、構居跡であることが確認できます。加古川の本流は洪水で度々川筋を変えたと言われていたようですが、昔は常観寺辺りを流れていたようです。境内には石幢があります。竜山石製で六面に地藏菩薩が刻まれた塔身と台座があり、室町時代の作とされています。

寺の境内は車の排気音なども聞こえず、静かで禅宗の凜とした空気を感じます。

9、草谷川

草谷川は曇川と共に、いなみ野台地を流れている川で加古川大堰の南側で加古川本流に合流しています。

大正 3 年刊行の加古郡誌によると、「水源を明石郡神出村の内広谷村に発し、郡の北境、草谷、下草谷、野村、下村、上西条、の各村を貫流し、中西条村に至りて、加古川に合流す」と書かれています。現在の神戸市西区と三木市

の境あたりから、稲美町、加古川市八幡町を経て、加古川大堰に至る一級河川で長さは 11.47 km です。

川は稲美町に入ると、山と山の間の谷底のように下の方を流れています。いなみ野台地は明治時代の終わりから、大正、昭和の初めに大きく開墾されました。稲美町に流れてしばらくすると、加古大溝の取水口があります。加古大溝はあの加古大池に水を引くための約 4 km の用水路です。万治 3 年（1660 年）に工事が始まり、延宝 9 年（1680 年）に完成しました。深く掘られた大きな溝です。草谷川のもう一つの用水、雁戸井用水の取水口が加古大溝取水口の下流 500m の所にあります。

加古川市八幡町に入った草谷川は、大昔から八幡町の人々の暮らしと共に流れてきました。八幡町内には古墳、遺跡が沢山あり、現在も雁戸井地区のほ場整備事業、東播磨道建設に伴う発掘調査が行われています。

普段はあまり水は流れていませんが、過去には草谷川の氾濫で村が流されてしまった事もあるようです。古くは嘉禄年間（1225～1226 年）、天文年間（1532～1554 年）、近くでは昭和 40 年（1965 年）に大洪水がありました。昭和 51 年（1976 年）草谷川は改修され現在に至っています。草谷川を通じて、稲美町と八幡町の繋がりに深さを感じます。

10、亀之井用水

国包は加古川の側にありながら、田畑は加古川の水面より高く、加古川本流から灌漑用水を引いたり、ため池を造

る用地もなく灌漑用水を得ることができませんでした。堰を造る以前は田畑が 20 町歩 (20ha) ばかりであったらしいですが、大半が畑で綿や小豆を栽培していました。夏には田の水を得るため、朝夕井戸から跳ね釣瓶で田の水を汲み上げなければなりませんでした。

そのような村の窮状を救うため、文化 13 年 (1816 年) 国包の畑平左衛門が美の川が加古川本流に合流する少し上流から取水するために堰を造ることを計画しました。この用水は国包村、船町、宗佐村の畑地を潤し、水田化するためのものでした。

井堰の構造が割石を亀の甲羅のように丸く積み上げたことから、井堰は「亀之井堰」、用水は「亀之井用水」と呼ばれるようになったと言います。現在井堰の石組は無くなり、コンクリートの井堰に変わっています。取水方法も水が必要な時期に風船をふくらませ水を溜めるように変わりました。

加古川市と三木市の境に、加古川本流と美の川の合流点があります。そこから少し美の川上流に遡った所に、亀之井用水の井堰があります。正法寺山の麓です。

この井堰は全国でも珍しい風船式の堰堤をもっています。春から夏にかけて農業用水が必要な時には、堰堤に空気を入れて膨らませ水を貯めて用水路に送水します。

秋から冬にかけては堰堤の空気を抜いてペしゃんこにして川の流れを妨げないようにしています。流木や流れてきた岩などで風船部分が破れないようにゴムや針金を何

重にも重ねて丈夫に作ってあります。

平成 5 年 (1993 年) 9 月に今の頭首工が完成しました。井堰が造られた当時、国包は姫路藩、井堰を造る場所が明石藩であったため、色々な苦労があったようです。

当時の美の川は高瀬舟が行き来しており、5 月の節句に堰を造り、秋の彼岸には堰を取り払ったとのことでした。

井堰の溝を国包村まで通す丸木山の岩場の開削は難工事でした。そのため生野銀山の金堀人足を雇って岩場を切り開いたとのことでした。

今用水路はいったん県道 18 号線を横切って、県道西側を加古川の流れに沿って少しの間流れ、また県道を横切って国包へと流れています。

全長 5400m の大工事で当初 3 年計画のものが、費用や人足の関係で 8 年目の文政 7 年 (1824 年) に完成しました。亀之井用水の完成によって、国包、船町、宗佐の 3 ヶ村に 50 町歩 (50ha) 田に水が届くようになり、井掛地は 70 町歩 (70ha) になりました。3 ヶ村の石高は天保 5 年 (1834 年) には、工事前の石高 1006 石が 1513 石と 5 割増の収穫になりました。

この用水は完成後、亀のように永く残ることを願って「亀之井用水」と名付けられました。畑平左衛門の功績を称え記念碑が嘉永 7 年 (1854 年) 建てられました。記念碑は現在国包公会堂の広場にあり、石の亀の上の碑に畑平左衛門を称えた文が刻まれています。亀之井堰は田植え前になると風船堰で美の川を堰き止めて、国包、船町、宗佐、

上西条、中西条に水を流しています。

風船堰に水が一杯の時期、郷土の先人に感謝し偉業を感じながら、「亀之井堰」、「亀之井用水」を歩かれてはいかがでしょうか。

1 1、大崎稲荷神社

県道 18 号線が八幡町の最北端、美の川にかかる美の川橋の手前左側に、石の鳥居が見えますがその下の方に大崎稲荷神社があります。石の鳥居は柱が道路工事の際に大分埋まったのではないかと思います。鳥居は人が背をかかめてやっつくぐり抜けれるほどの高さです。不思議な感じ

です。鳥居から少し下ると亀之井用水の水路があり、水路の方を向いて社殿が建てられています。参道は綺麗に整備されていますが境内はまさに昼なお暗い森になっています。正一位大崎稲荷大明神と書かれた赤い鳥居が社殿前に立っています。境内には藤の大木が近くの木に巻き付いて大きく枝を広げています。おそらく藤の木は加古川市で一番太く、大きいのではと感じました。春にはきっと見事な花を咲かせるのではないかと想像します。

「ふるさとやはた」によりますと、昔は宗佐の守護神社として年三回の祭礼があり、祭礼の日地区の家では百姓仕事を休み村にとって憩いの日で、出店なども軒を連ねにぎわったとのこと。

又、昔加古川の河川改修が計画された時、現在神社のあ

る「青木森」が河川にかかり、移転を余儀なくされました。しかし神域をけがすことは恐れ多いと言う事になり、特別な計らいで移転は避けられ今に続いています。祭礼は、春は2月初午に、夏は7月23日、冬は12月23日です。

石の鳥居のほかにもう一つ木の赤い鳥居が少し離れた県道 84 号線の道端に立っています。ここから石の鳥居に向かって参道が続いていたようです。石の鳥居の柱の側には「青木森」「さんけいみち」と刻まれた石柱があります。

神社の境内から加古川の流れを眺め、附近の山並みを見て、昔を、又自然を感じられてはどうでしょうか。

1 2、民話 「ねずみにひかれた秀吉のお墨付き」

八幡町には民話がたくさんあります。船町に秀吉のお墨付きについての民話があります。「郷土のおはなしとうた 第2集」より引用します。

「天正6年(1578年)、秀吉の播磨攻めの時、神吉城、志方城を攻略して三木城に向かっている時、加古川にさしかかりましたが船の用意がなく、川の前で立往生していました。その時、船町の村人が一丸となって筏を組み、秀吉をはじめ大軍を通しました。

後日秀吉から呼び出しがあり、おほめの言葉をいただき、褒美としてお墨付きが下されました。お墨付きには「船町の住民、年貢、夫役いっさい免除のこと、横流し船1艘、櫓3丁を賜り、破損したら飾万津(今の飾磨)で無償修理させるとよい」とありました。

船町の人々は太閤さんからもらった船ということで、大切に使い生計を立てていますが、長年の使用で船の破損がひどくなったので修理に出すことになりました。「さあ、今こそお墨付きが役立つ時だ」と庄屋の家に大事にしまっていたお墨付きを出そうとしましたが、見当たりません。さては泥棒にでも入られたかと思いましたが、その気配もなく、家じゅう家探しをしましたが見つかりません。庄屋はじめ村人は途方にくれてしまいました。

ところがある日、ねずみが床の間をあばれまわるので、捕えようとして追い回していたところ、床裏の穴に逃げ込んでしまいました。「ねずみめ」と穴に手を入れ、引き出したところ、ねずみのふんとともに大事な太閤さんのお墨付きが出てきました。

庄屋をはじめ村人は胸をなでおろし、早速船の修理に取りかかることができました。

その後このお墨付きは、代々庄屋の家に大切に保管され、今に伝わっているそうです。」

少し省略しましたがこのような話です。

お墨付きが現在も保管されているという、昔の庄屋の松尾とき子さん宅をお伺いしました。上品な、きれいな奥様が色々話をして下さいました。お墨付きは表装されて、床の間に掛けてありました。民話につながるものが現実目の前にあることにとても感激しました。

今後も大事に守っていききたい遺産と思います。

13、上西条の石棺仏

八幡町上西条の村中に公会堂があり広場があります。広場の北の方には地蔵堂があり、2体のお地蔵さまがお祀りされています。左手にお地蔵さまが彫られた石棺があつて、右側には木造地蔵菩薩座像がお祀りされています。地蔵堂の中は綺麗に掃除をされていて、地域の人が大切にされているのがわかります。

石棺仏は家形石棺の蓋石に地蔵立像が彫られ、石棺の枠には蓮華座が彫られています。案内板によりますと石棺仏は南北朝時代のものと書かれています。また案内板には上西条の墓地にも石棺仏が2基あると書かれています。上西条の墓地は近所の人に尋ねると成福寺（じょうふくじ）にあると言う事です。後日成福寺に行くと寺の南の塀の側を少し上がった所に2基ならんで石棺仏がありました。

上西条あたりには古墳がたくさんあります。今東播磨道が通っている東沢の望塚（ぼんづか）からは加古川市で唯一の銅鐸が出土しており、古くから人々の生活が営まれていたことが想像できます。

上西条の地蔵堂では8月の地蔵盆には大変にぎやかだそうです。

14. 八幡町の今 1

氏子の垣根を超え屋台が集結

八幡小学校区（上荘町国包及び厄神町を含め八幡小学校区と呼んでいます。）には、3つの神社があります。中西条及び上西条は上中西条八幡神社、下村、野村及び宗佐は宗佐厄神八幡神社、船町、国包及び厄神町は上之庄神社です。そしてそれぞれの神社で秋祭りを行っているのですが、今では、宵宮に3つの氏子がファーマン八幡に集結し、屋台の練りを披露しています。

昭和40年代まで、当地方には秋祭りの屋台は一台もありませんでした。昭和51年に船町が屋台を新調したのをきっかけに各町が次々と屋台を新調し、現在は8町すべてが屋台を持っています。

また、平成18年に、船町、下村及び上西条の3町がファーマンSHOP八幡で屋台の練りを披露すると、秋祭りが世代間交流にも大いに役立つことから、次々と参加する町が増え、平成30年は、7町の屋台が参加しました。令和元年には、野村も参加して、8町が出そろうところでしたが、台風のため中止となり、8町の揃い踏みは、令和2年に持ち越されました。

令和元年に予定されていたふあーみん SHOP 八幡での8台の屋台集合のちらし

令和元年 八幡地区
屋台大集合
~八幡町すべての屋台が一同に集う!~

菊の花が香る季節となりました。
今年は、初めて八幡町のすべての屋台が「ふあーみんSHOP八幡」に集合する運びとなりました。各町内自慢の勇壮な屋台練りを是非ご観覧ください。

■ 日付: 令和元年10月12日(土曜日)
■ 時間: 17:00~ 各町屋台入場
■ 場所: 「ふあーみんSHOP 八幡」

秋祭り実行委員会

平成20年のふあーみんなSHOP八幡での集合写真
左から船町、宗佐、下村、上西条の各屋台



15. 八幡町の今 2

各町の全役員が一同に集まり年賀交歓会を開催

八幡小学校区では、平成13年から、各町のすべての役員が一同に会し、また、地元の幼稚園長、小、中学校の校長先生、地元出身の国会、県会、市会議員、公民館長等を招き、年賀交歓会を開催しています。

これは、これまで一緒に話し合う機会が少なかったことから、「八幡町は一つ」のかけ声のもと、懇親を深め、八幡町をよりよくするための意志統一の場として設けられました。

出席対象者は以下のとおりです。

町内会正副会長、老人会長、女性会長、農業団体長、農業委員、土地改良区、消防団、民生児童委員、少年愛護センター少年補導委員、防犯協会少年補導員、社会教育・福祉教育推進員、人権啓発推進員、保健衛生推進員、秋祭り保存会、小学校PTA、少年団、交通安全協会、学校茶道教室指導者



第20回目を迎える令和2年は、95名の出席がありました。



発足当時について熱く語る畑宗俊氏（発足当時の連合町内会長）

参考文献

- | | |
|-----------------|------------|
| 「今里伝兵衛と新井の歴史」 | 新井水利組合連合会 |
| 「加古郡誌」 | 兵庫県加古郡役所 |
| 「ふるさとやはた」 | 加古川農業普及所 |
| 「兵庫のため池誌」 | 兵庫県農地整備課 |
| 「播磨国風土記」 | |
| 「加古川の道標を訪ねて」 | 財) 加古川市文化振 |
| 興公社 | |
| 「兵庫の道路元標」 | 藤原勝永 |
| 「広報かこがわ」 | 2014年2月号 |
| 「郷土のおはなしとうた」第2集 | 加古川市教育委員会 |
| 「加古川市寺院総鑑」 | 兵庫大学短期大学部 |

MEMO

